

# ***License Administrator***

**ソフトウェアライセンス管理ツール**

**マニュアル**

**(サーバ編)**

【ご注意】

- (1) 本書の内容の一部または、全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不明な点やお気付きの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本マニュアルに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

©2010 DTS INSIGHT CORPORATION. All rights reserved

Printed in Japan

改訂履歴

版	発行日付	変更内容
第 1 版	2018/07/04	新規作成

---

# 目次

---

第1章	はじめに.....	3
1.1	ソフトウェアライセンス管理について.....	4
1.1.1	フローティングライセンスの構成.....	4
1.1.2	使用するソフトウェアライセンス管理ツール.....	4
1.2	動作環境.....	5
1.3	ライセンスサーバ導入の手順.....	6
第2章	LASY 導入.....	7
2.1	インストール方法.....	8
2.2	LASY の起動方法.....	11
2.2.1	スタートメニューからの起動方法.....	11
2.3	サービスのインストール.....	12
2.3.1	設定手順.....	12
2.4	ライセンスの更新・追加.....	14
2.4.1	設定手順.....	14
第3章	LASY 操作.....	15
3.1	サービスの開始.....	16
3.1.1	設定手順.....	16
3.2	サービスの停止.....	17
3.2.1	設定手順.....	17
3.3	サービスの再起動.....	18
3.3.1	設定手順.....	18
3.4	サービスの削除.....	19
3.4.1	設定手順.....	19
3.5	フローティングサーバのステータス確認.....	21
3.5.1	現在のステータス確認方法.....	21
3.6	ログ出力.....	23
3.6.1	ログファイルの出力方法.....	23
3.6.2	ログファイルの表示方法.....	25
3.6.3	注意事項.....	25
第4章	アンインストール.....	26
4.1	アンインストール方法.....	27
4.1.1	Windows 2003 Server の場合.....	27
4.1.2	Windows 2008 Server/ Windows 7 の場合.....	27

第 5 章	トラブルシューティング .....	28
5.1	注意事項.....	29
5.1.1	ライセンスファイルパスについて.....	29
5.1.2	ポート番号の指定方法 .....	29
5.1.3	ログファイルのサイズ肥大化について.....	30
5.1.4	ファイアウォールについて .....	32

## 第1章 はじめに

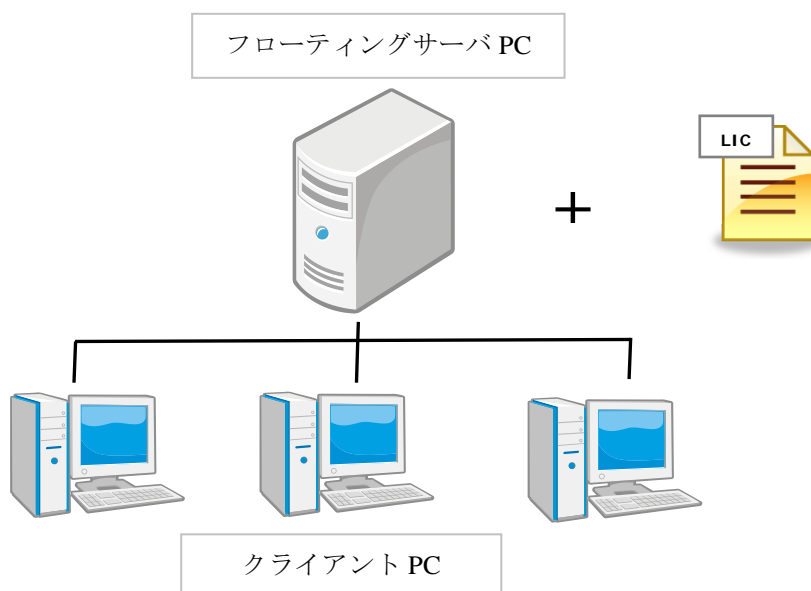
## 1.1 ソフトウェアライセンス管理について

ソフトウェアライセンスの登録が必要な製品を購入された場合、ライセンスをインストールする必要があります。ライセンス形態はノードロックライセンスとフローティングライセンスがあります。

本マニュアルは、フローティングライセンスで使用するライセンスサーバ PC のセットアップとライセンスのインストール方法、インストール状況の確認方法を記載しています。

### 1.1.1 フローティングライセンスの構成

フローティングライセンスは、フローティングサーバ PC 上で認識できる MAC アドレス(イーサネットアドレス)に対して付与されます。各クライアント PC はフローティングサーバ PC へライセンス認証のアクセスを行い、ソフトウェアライセンス管理された製品を使用することができます。



### 1.1.2 使用するソフトウェアライセンス管理ツール

ソフトウェアライセンス管理ツールには、以下の2つの製品があります。

#### (1) License Administration Server for YDC (LASV)

フローティングサーバPC上で、ライセンスを管理するツールです。  
フローティングライセンス形態で必要となります。

#### (2) License Administrator for YDC (LAY)

クライアントPC上で、ライセンスのインストール状況を確認するツールです。  
ノードロック、フローティングの両ライセンス形態で必要となります。  
LAYの詳細は、『ソフトウェアライセンス管理ツールマニュアル(クライアント編)』を参照してください。

## 1.2 動作環境

LASY の動作環境は以下の通りです。  
ご使用のコンピュータの環境をご確認ください。

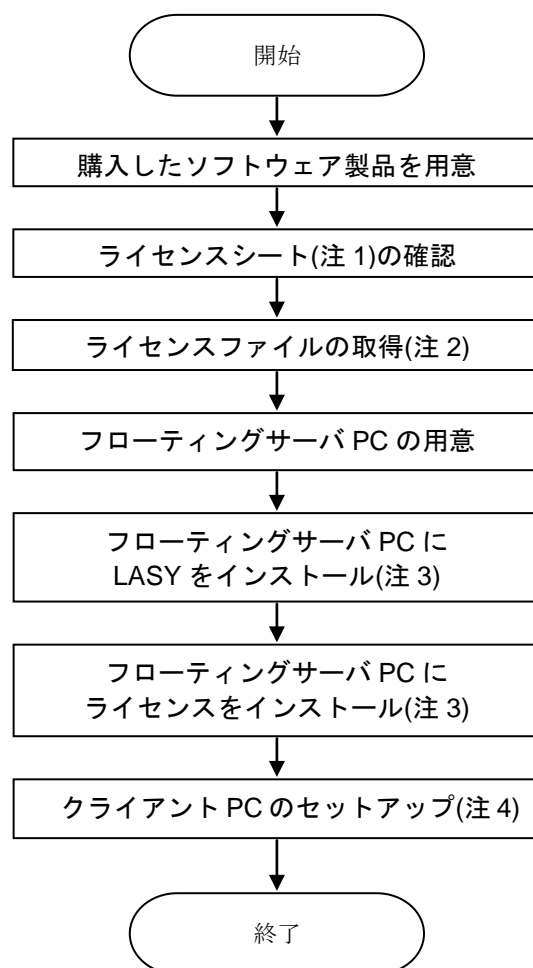
対応 OS	Windows 2003 Server 32bit 版 Windows 2008 Server 32bit 版 Windows 7 32/64bit 版
通信	Ethernet 通信ポート



## 1.3 ライセンスサーバ導入の手順

ソフトウェアライセンス管理対象の製品を購入された場合、ライセンスシートが付属されます。フローティングサーバを使用するには、以下の手順で導入してください。

＜フローティングサーバ導入の流れ＞



注 1：ソフトウェアライセンス管理対象の製品にはライセンスシートが付属されています。

注 2：ライセンスファイルの取得方法についてはライセンスシートを参照してください。

注 3：LASY とライセンスのインストールについては【第 2 章 LASY 導入】を参照してください。

注 4：クライアント PC の設定については『License Administrator ソフトウェアライセンス管理ツール マニュアル（クライアント編）』を参照してください。

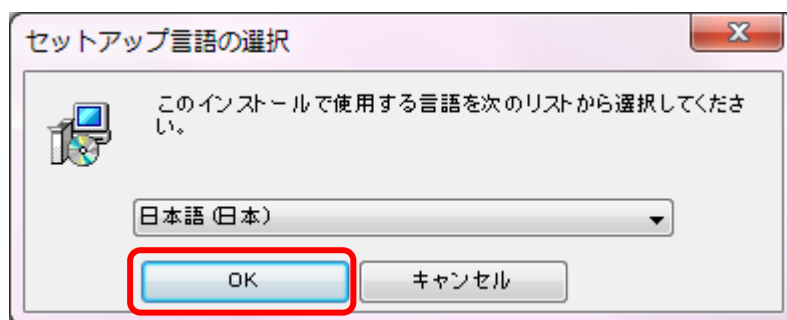
## 第2章 LASY 導入

## 2.1 インストール方法

1. Re:Zolver のインストール時に指定した、LASY のインストールフォルダにある【setup.exe】をダブルクリックしてください

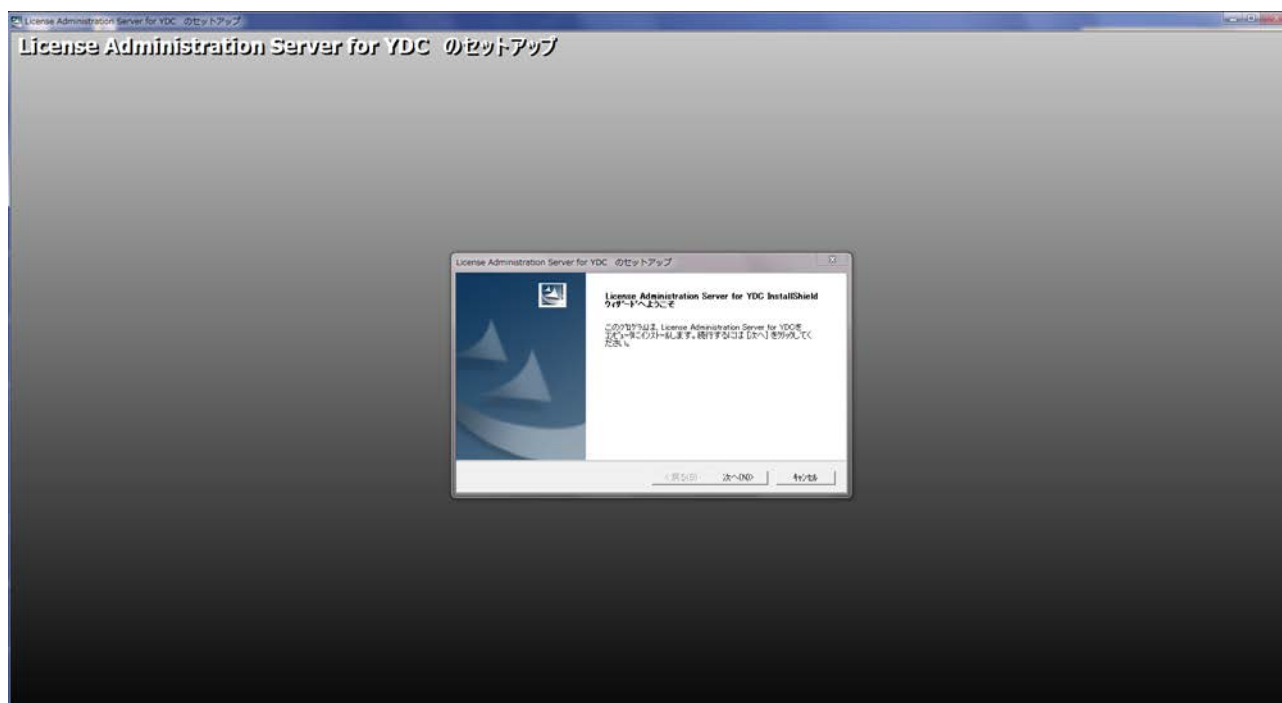
※インストールフォルダを C:\DTSinsight に指定した場合  
C:\DTSinsight¥LicenseAdministrationServerInstaller¥setup.exe

2. セットアップに使用する言語を指定します。



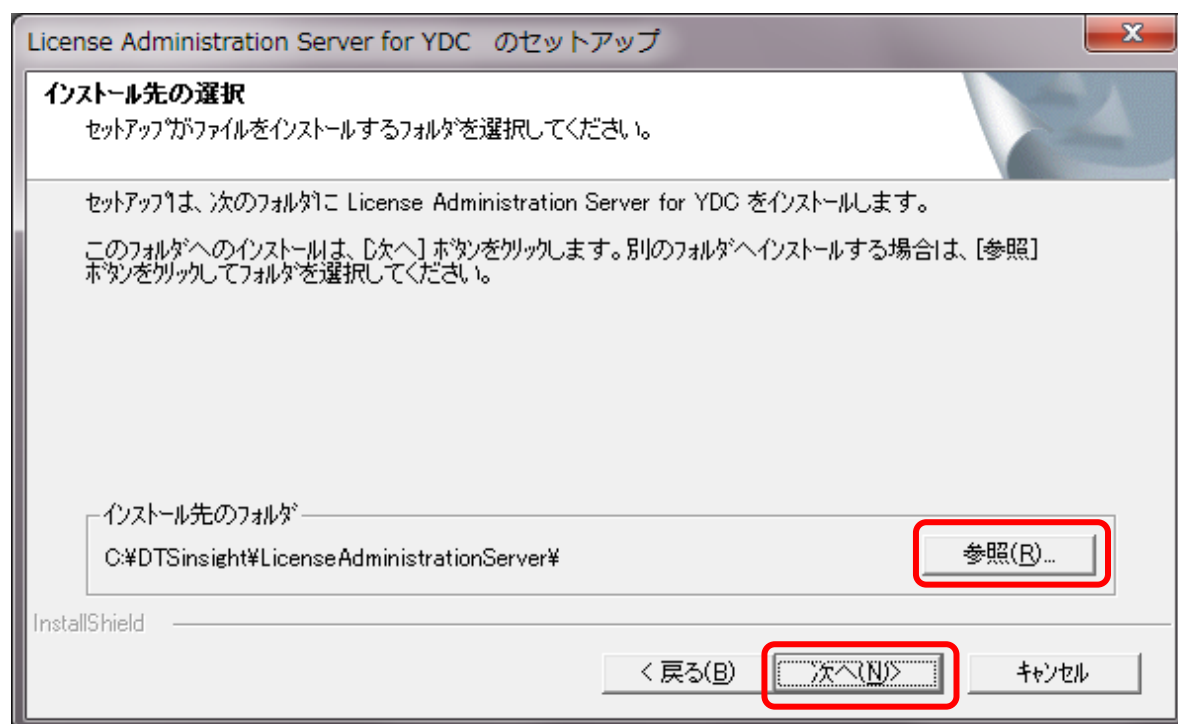
3. インストールを開始します。

LASY のインストールを開始すると下記画面が表示されます。  
画面の指示に従って操作してください。



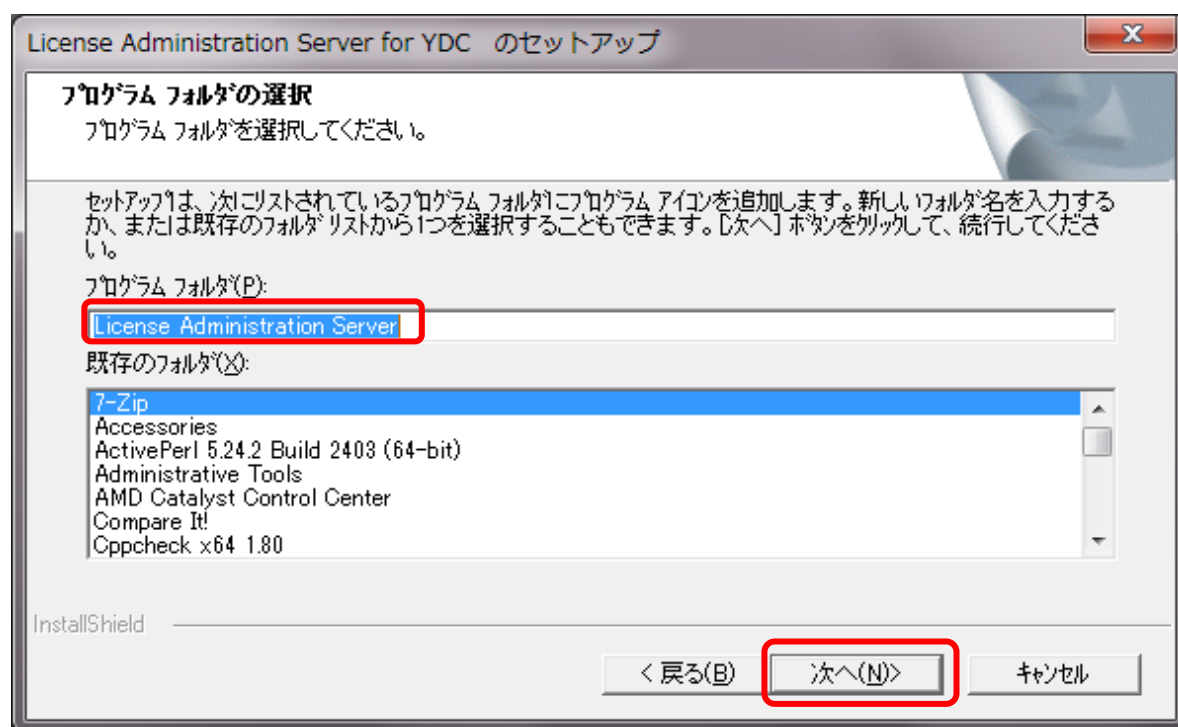
4. LASY のインストール先を指定してください。

デフォルトのインストールフォルダは【C:\DTSinsight\LicenseAdministrationServer】になっています。  
変更する場合は[参照(R)...]をクリックして指定してください。

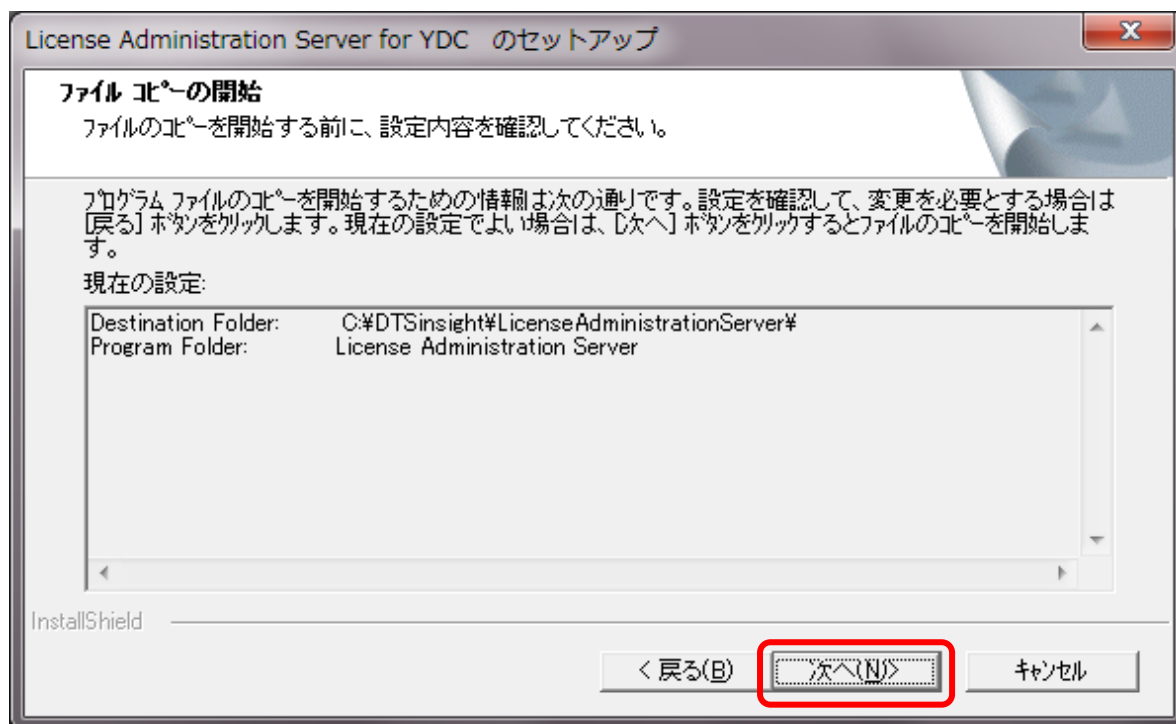


5. フォルダ名を指定してください。

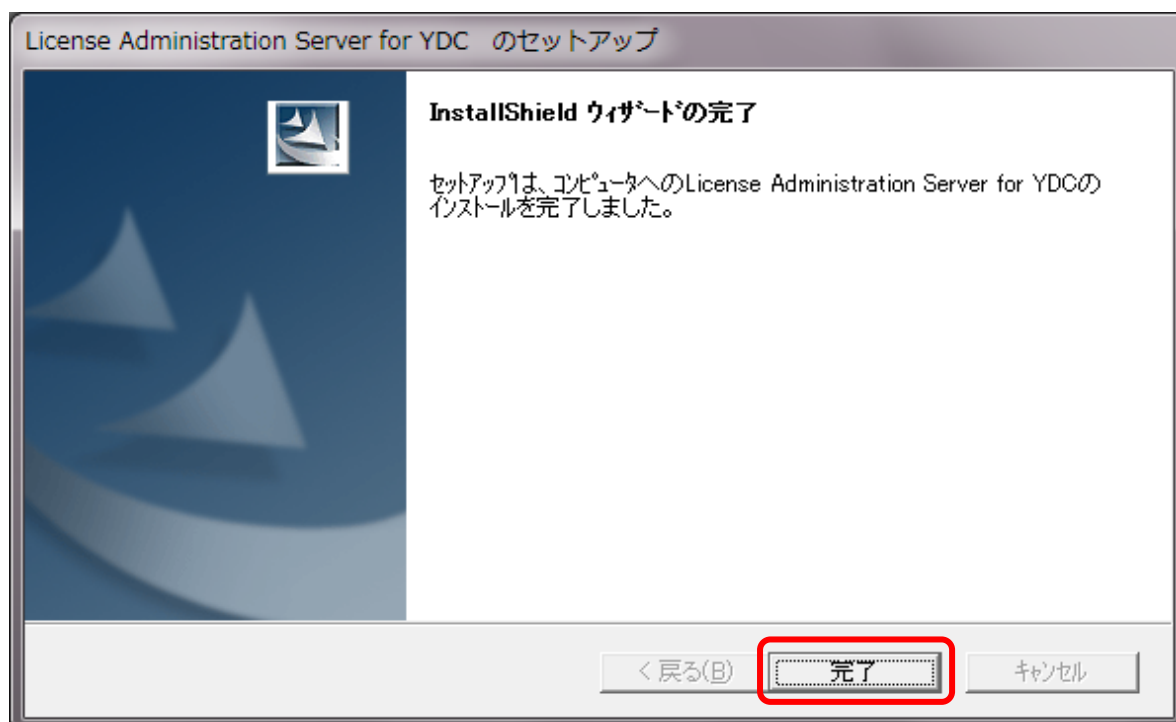
デフォルトは【License Administration Server】になっています。



6. インストール内容を確認してください。  
[次へ(N)]を選択すると、LAS Y のインストールが開始します。



7. 正常終了のダイアログが表示されたらインストール完了です。



## 2.2 LASY の起動方法

フローティングサーバ PC 上で、ライセンスのインストール、ライセンス状況の確認を行うには、ライセンス管理ツール“LASY”を使用します。

### 2.2.1 スタートメニューからの起動方法

Windows の[スタート]メニュー[DTSinsight]－[License Administration Server]－[License Administration Server for YDC]を起動します。

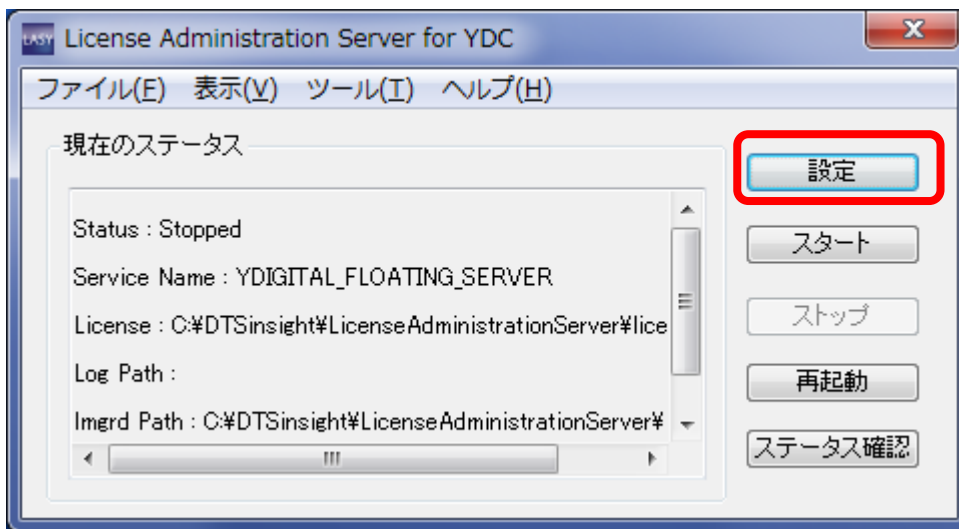


## 2.3 サービスのインストール

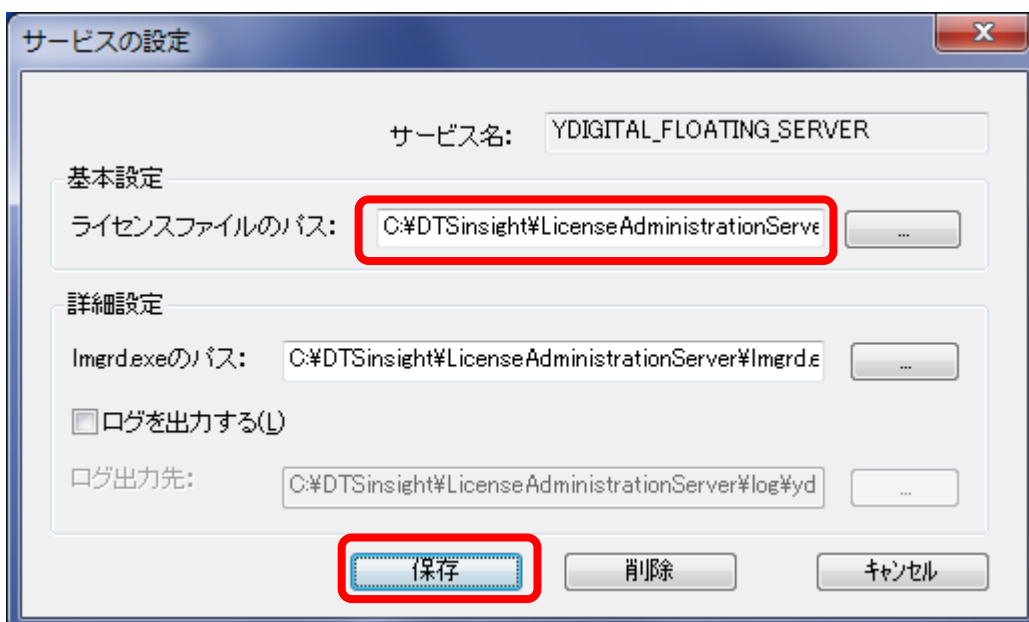
フローティングサーバを稼動するためには、サービスのインストールが必要になります。  
下記手順に従い、サービスをインストールしてください。

### 2.3.1 設定手順

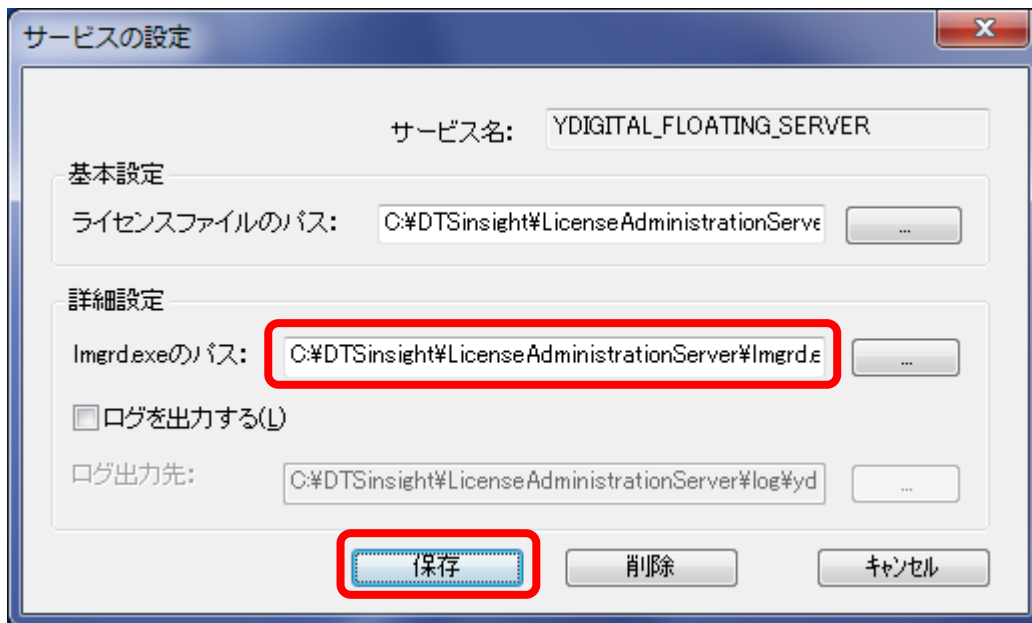
- (1) 取得したライセンスファイルをフローティングサーバ PC の任意のフォルダに保存します。
- (2) ライセンス管理ツール “LASV” を起動します。  
起動方法については【2.2 LASV の起動方法】を参照してください。
- (3) [設定]ボタンを押して、サービスの設定画面を開きます。



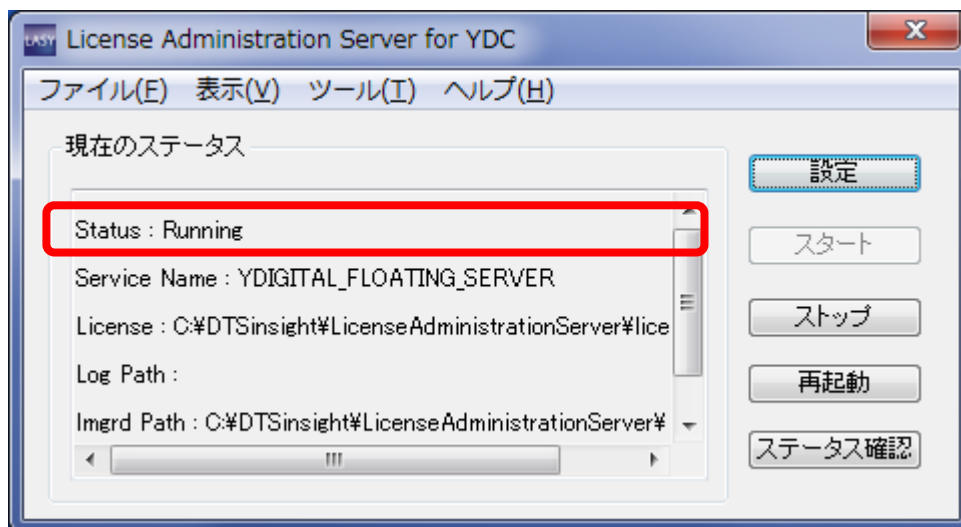
- (4) [ライセンスファイルのパス]にライセンスファイルを保存したフォルダを指定します。  
(ここではデフォルト設定時の“C:\DTSinsight\LicenseAdministrationServer\license”フォルダとします。)



- (5) ライセンスサーバのサービスとして動作する `lmgrd.exe` のパスを設定します。  
(通常は LASY のインストール先にあるファイルを指定してください。)



- (6) [保存]ボタンを押すとサービスのインストールが行われ、ステータス画面に戻ります。サービスが起動すると、現在のステータスに[Status : Running]と表示されます。



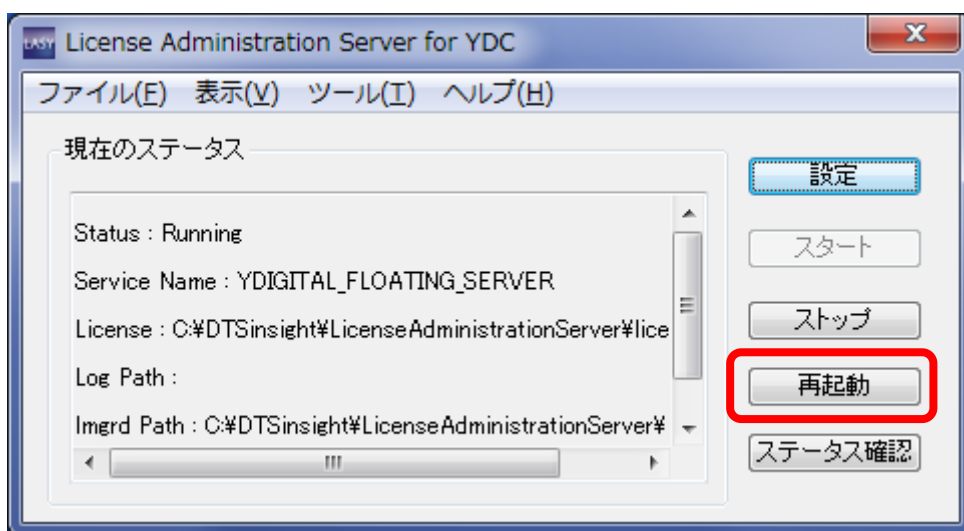
LASY 終了後、サービスは実行し続けますので、フローティングライセンス機能は有効のままです。



## 2.4 ライセンスの更新・追加

### 2.4.1 設定手順

- (1) 更新・追加するライセンスファイルを”LASYS”で設定したライセンスフォルダに保存します。
- (2) ライセンス管理ツール “LASYS”を起動します。  
起動方法については【2.2 LASYS の起動方法】を参照してください。
- (3) [再起動]ボタンを押し、サービスを再起動します。



- (4) 再起動後、ライセンスの更新・追加が完了すると現在のステータスに[Status : Running] と表示されます。

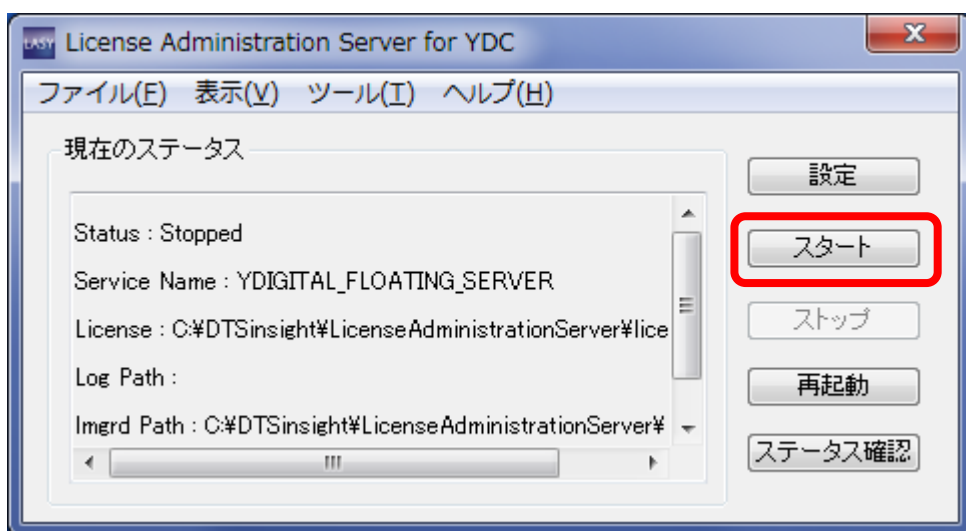
## 第3章 LASY 操作

## 3.1 サービスの開始

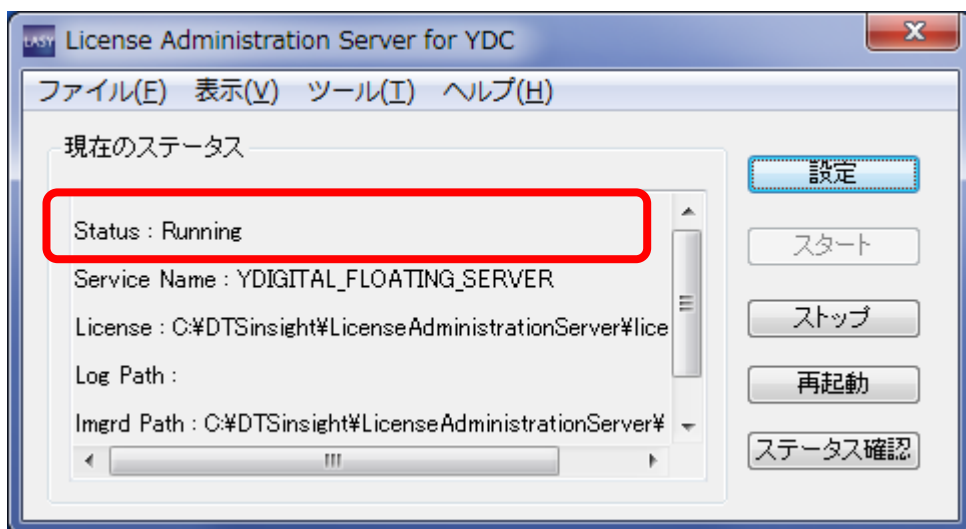
インストールしたサービスが停止している場合、LASY からサービスを開始することができます。  
サービスの停止については【3.2サービスの停止】を参照してください

### 3.1.1 設定手順

- (1) ライセンス管理ツール “LASY”を起動します。  
起動方法については【2.2 LASY の起動方法】を参照してください。
- (2) [開始]ボタンを押して、サービスを開始します。



- (3) サービスが開始すると、現在のステータスに[Status : Running]と表示されます。

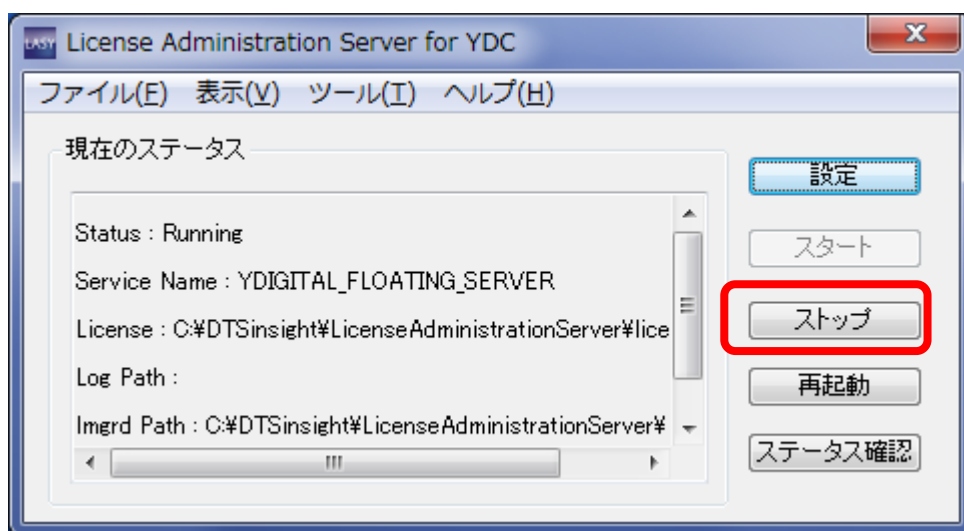


## 3.2 サービスの停止

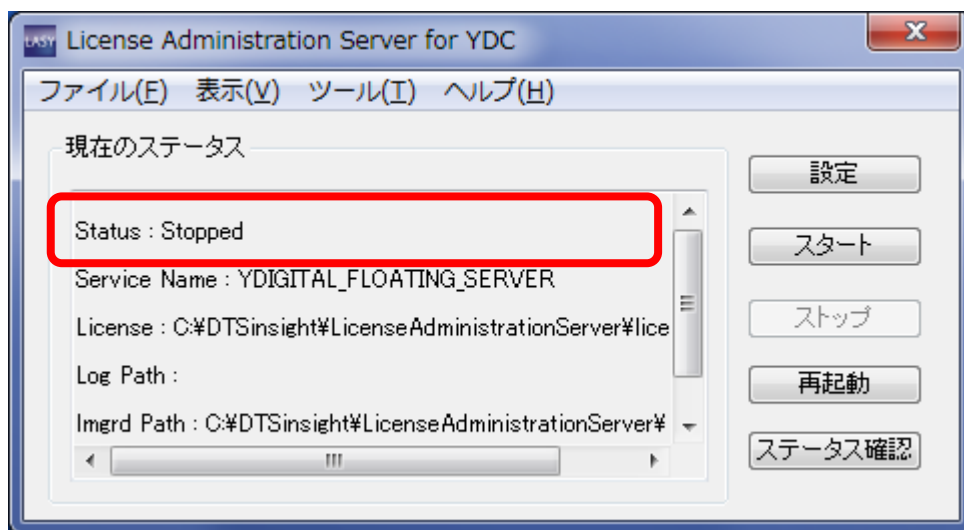
インストールしたサービスが開始している場合、LASYS からサービスを停止することができます。  
サービスの開始については【3.1サービスの開始】を参照してください

### 3.2.1 設定手順

- (1) ライセンス管理ツール “LASYS”を起動します。  
起動方法については【2.2 LASYS の起動方法】を参照してください。
- (2) [停止]ボタンを押して、サービスを停止します。



- (3) サービスが停止すると、現在のステータスに[Status : Stopped]と表示されます。

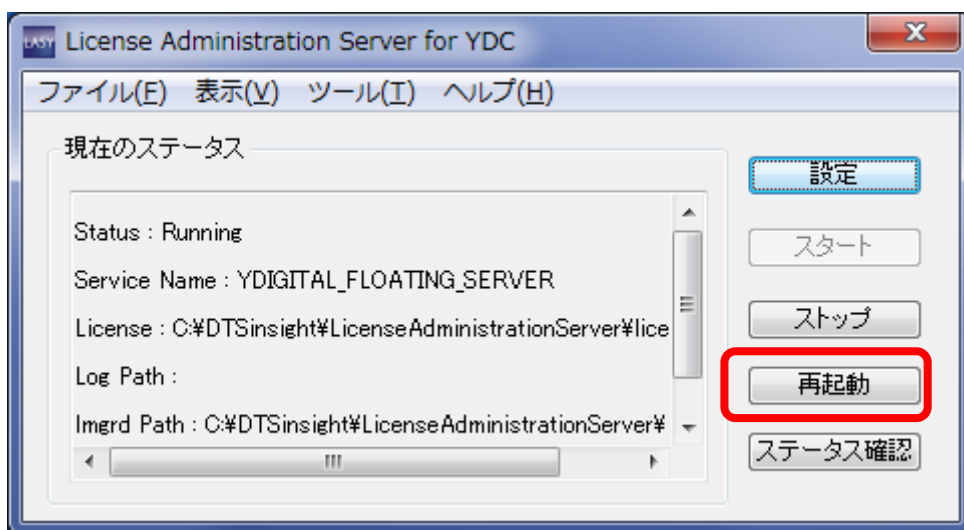


## 3.3 サービスの再起動

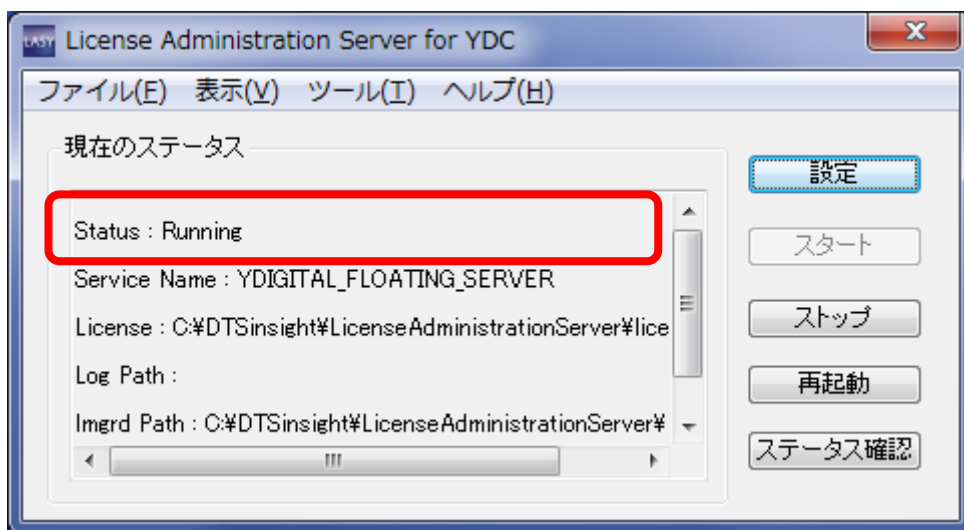
インストールしたサービスを **LASY** から再起動することができます。サービスが開始している場合は、一度停止して開始します。サービスが停止している場合は、サービスを開始する動作と同じになります。サービスを再起動しますと、ログファイルが初期化されるのでご注意ください。

### 3.3.1 設定手順

- (1) ライセンス管理ツール “**LASY**”を起動します。  
起動方法については【2.2 **LASY** の起動方法】を参照してください。
- (2) [再起動]ボタンを押して、サービスを再起動します。



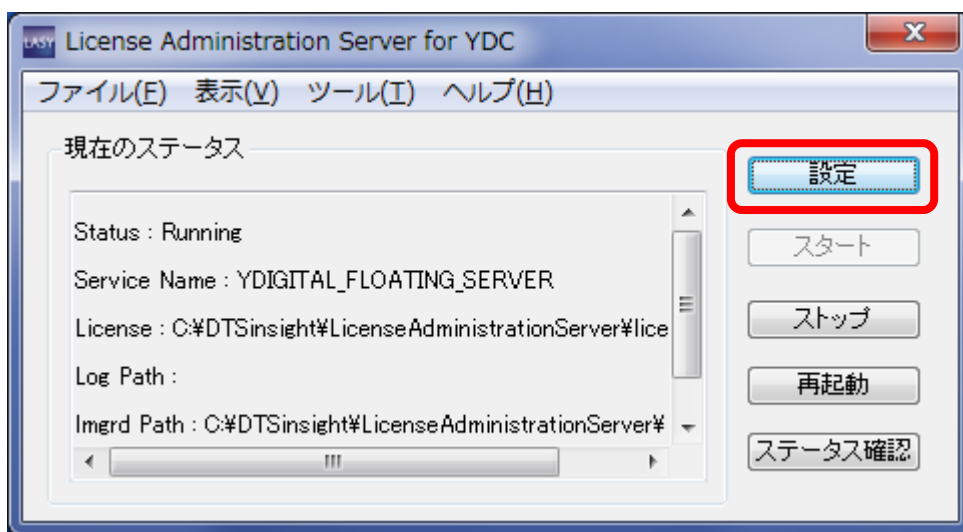
- (3) サービスが再起動すると、現在のステータスに[Status : Running]と表示されます。



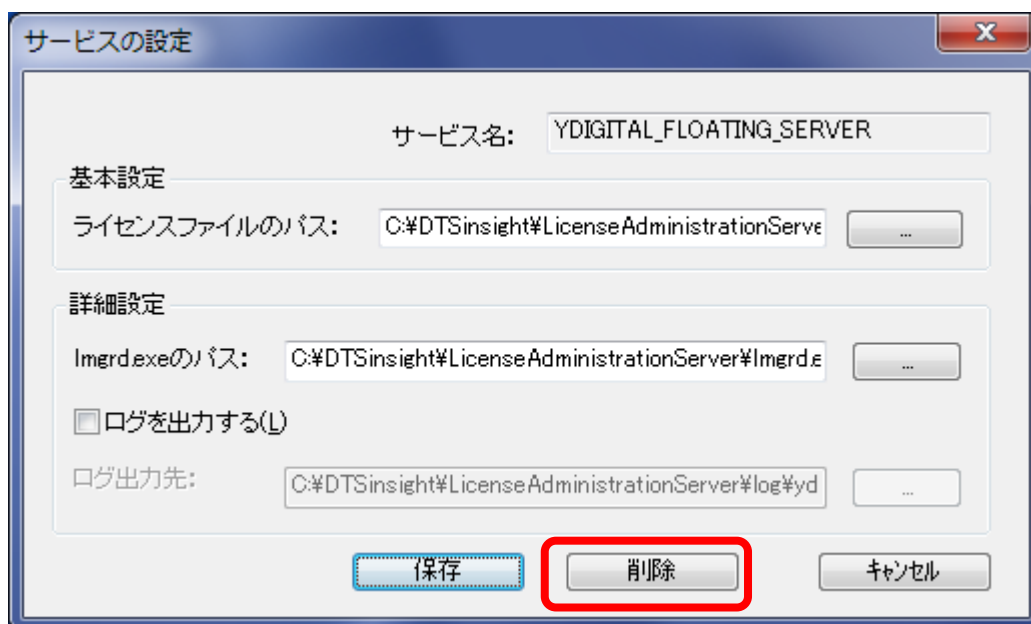
## 3.4 サービスの削除

### 3.4.1 設定手順

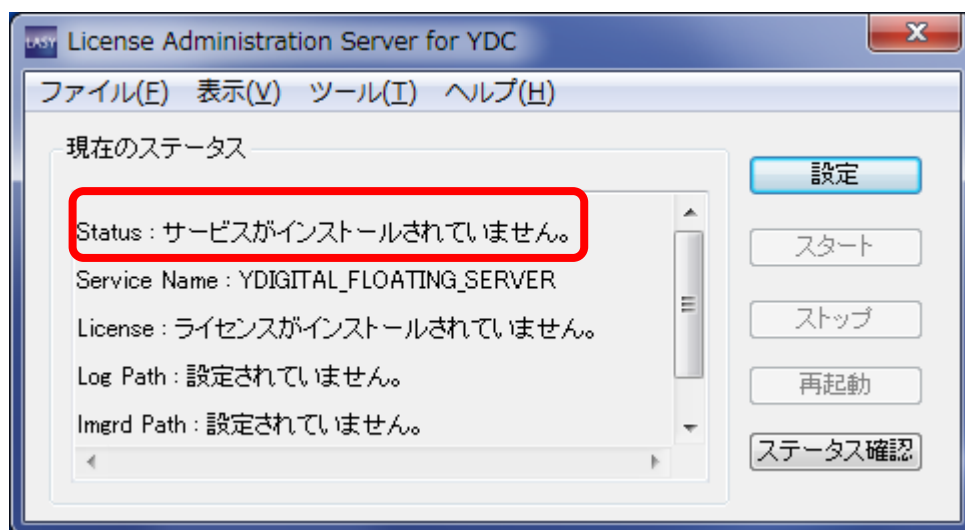
- (1) ライセンス管理ツール “LAS Y” を起動します。  
起動方法については【2.2 LAS Y の起動方法】を参照してください。
- (2) [設定] ボタンを押して、サービスの設定画面を開きます。



- (3) [削除] ボタンを押します。  
\*削除を完了するため、LAS Y は自動的に再起動します。



- (4) LASY 再起動後にサービスが削除されます。サービスが削除されると、現在のステータスに[Status : サービスがインストールされていません。] と表示されます。



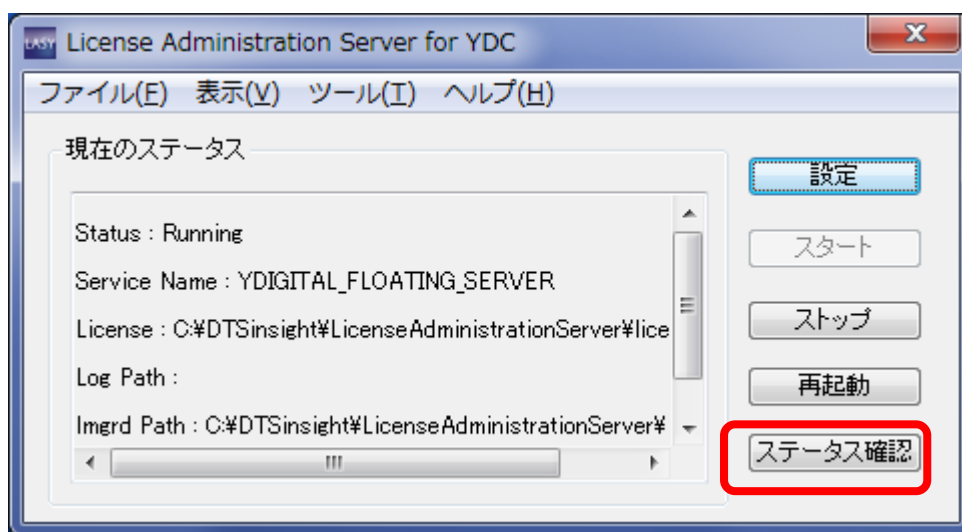
## 3.5 フローティングサーバのステータス確認

サービス稼働中はフローティングサーバのステータスを確認することができます。  
以下のステータスが確認できます。

- ・ フローティングサーバ稼働ステータス
- ・ フローティングサーバに登録されているライセンスファイル
- ・ 各 Feature のステータス
  - 各 Feature の最大数
  - 各 Feature の使用状況（どのユーザが使用しているかなど）

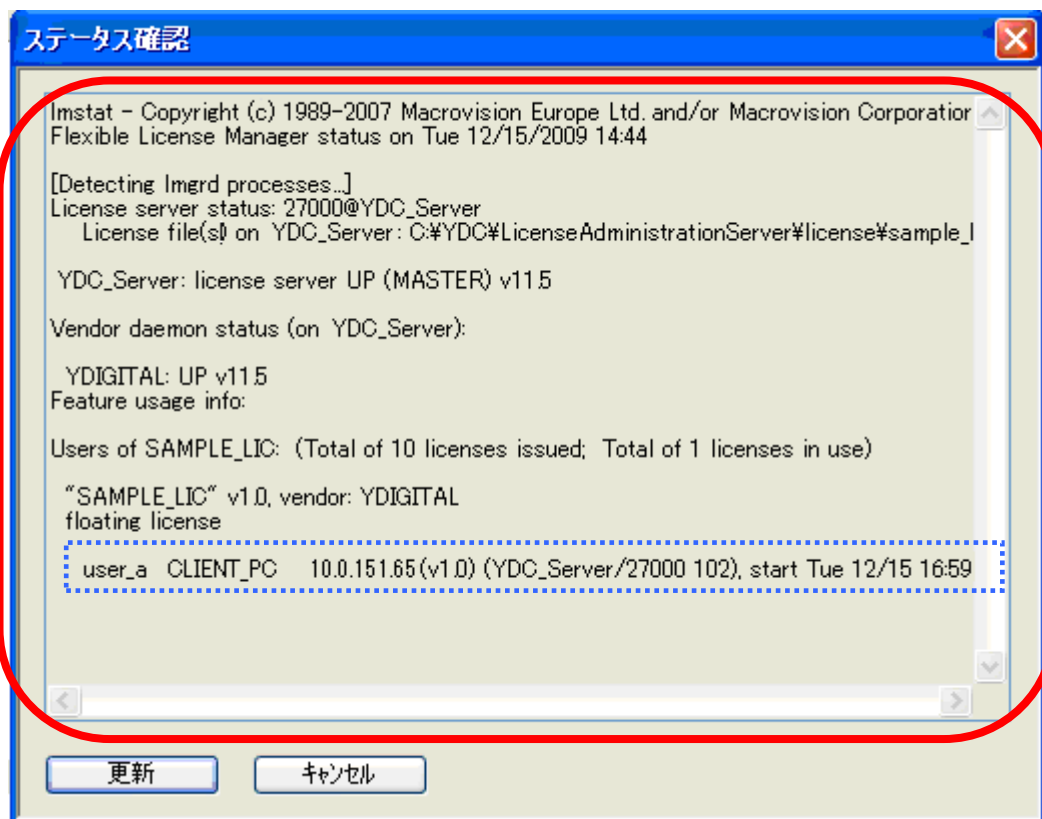
### 3.5.1 現在のステータス確認方法


- (1) ライセンス管理ツール “LASV”を起動します。  
起動方法については【2.2 LASV の起動方法】を参照してください。
- (2) [ステータス確認]ボタンを押して、ステータス確認画面を開きます。





(3) [ステータス確認]が表示され、フローティングサーバの現在のステータスを確認します。



 枠内の内容は、[SAMPLE\_LIC]というライセンスを使用しているユーザを示します。

#### 【出力内容の説明】

出力内容	説明
<i>user_a</i>	ユーザ名
<i>CLIENT_PC</i>	ユーザ側ホスト PC のホスト名
<i>10.0.151.65</i>	ネットワーク上で表示されるライセンスサーバのホスト名 (名前解決されない場合は IP アドレスが表示されます)
<i>v1.0</i>	Feature のバージョン
<i>YDC_Server</i>	ライセンスサーバのホスト名 (ライセンスファイル内に記述されているホスト名が表示されます)
<i>27000</i>	ライセンスサーバが使用している TCP/IP ポート番号
<i>102</i>	ライセンスのハンドル番号
<i>start Tue 12/15 16:59</i>	ライセンスをチェックアウトした時刻

## 3.6 ログ出力

フローティングサーバのすべての挙動をログファイルに出力して保存することができます。

デフォルト設定では、ログファイルの出力は無効になっています。

有効にする場合は「3.6.1 ログファイルの出力方法」の手順に従い、ログファイルを出力するようにしてください。

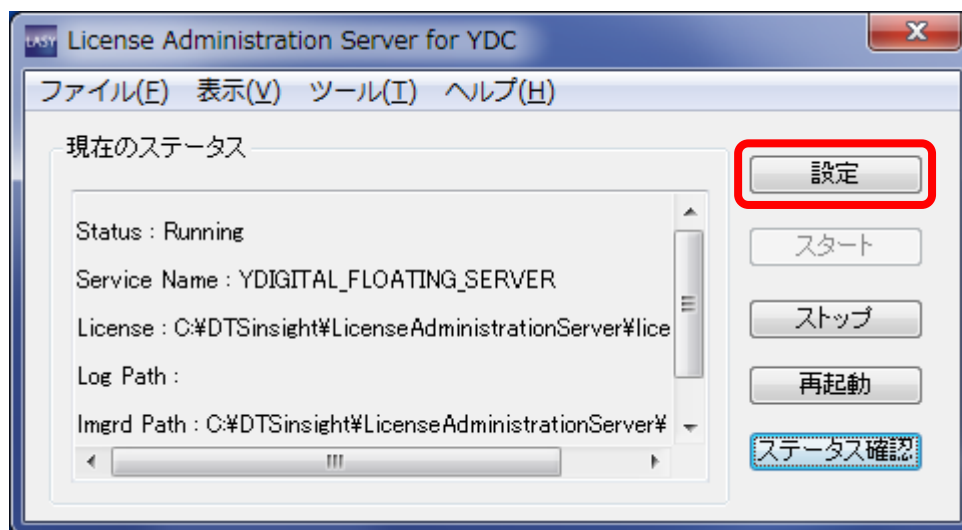
ログファイルは以下のフォーマットで保存されます。

*hh:mm:ss (デーモン) メッセージ*

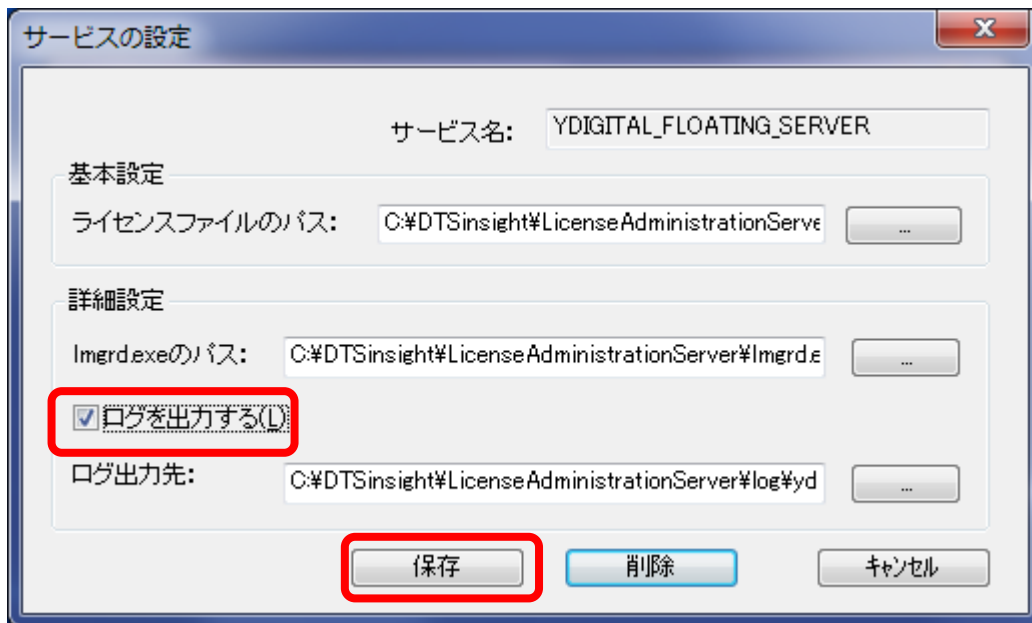
項目	説明
hh:mm:ss	時間：分：秒 のフォーマットで時間が表示されます。
デーモン	操作をしたデーモン名が表示されます。
メッセージ	サーバのステータス、ライセンスの使用状況など、ライセンスサーバの詳細な動作内容が表示されます。

### 3.6.1 ログファイルの出力方法

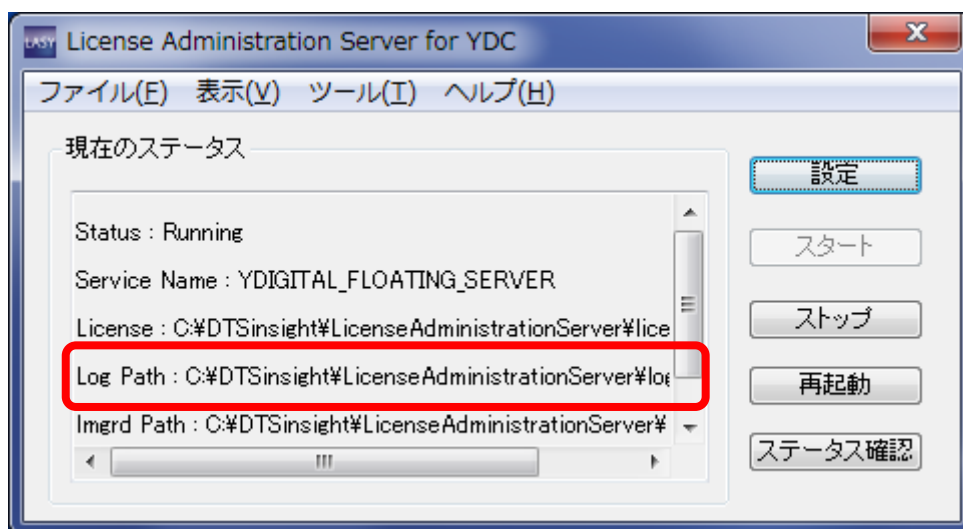
- (1) ライセンス管理ツール “LASV”を起動します。  
起動方法については【2.2 LASV の起動方法】を参照してください。
- (2) [設定]ボタンを押して、サービスの設定画面を開きます。



- (3) [ログを出力する]にチェックを入れ、ログの出力先を設定します。  
 (ここでは例として、“C:\DTSinsight\LicenseAdministrationServer\log\ydigital.log”とします。)



- (4) [保存]ボタンを押すとサービスが再起動し、ステータス画面に戻ります。  
 サービス再起動後に、現在のステータスに[Log Path : C:\DTSinsight\<設定したログファイルのパス>]と表示されます。



### 3.6.2 ログファイルの表示方法

メニューバーから[表示(V)]-[ログの表示(L)] を選択し、ログファイルを開きます。

### 3.6.3 注意事項

ログ出力を有効にすると、ログファイルはサービスを再起動しないかぎり、ログを取り続けます。  
そのためログファイルのサイズが膨大になる場合があります。ログファイルのサイズ肥大化の防止については【5.1.4ログファイルのサイズ肥大化について】を参照してください。

## 第4章 アンインストール

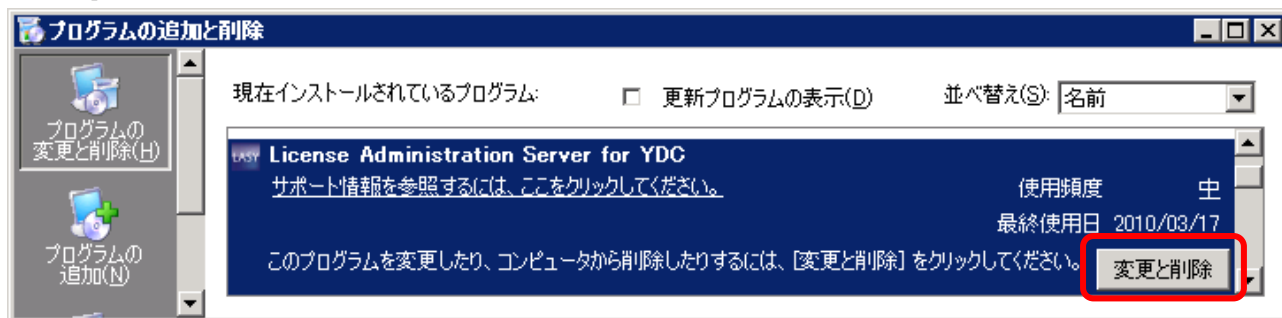
## 4.1 アンインストール方法

アンインストールは以下の手順に従って行ってください。

LASY をアンインストールすると、サービスも自動的に削除されます。

### 4.1.1 Windows 2003 Server の場合

1. Windows の[コントロールパネル]から[アプリケーションの追加と削除]を選択してください。
2. 表示されるウィンドウ内のリストから「License Administration Server for YDC」を選択し、[変更と削除]ボタンを押してください。



### 4.1.2 Windows 2008 Server/ Windows 7 の場合

1. Windows の[コントロールパネル]から[プログラムのアンインストール](クラシック表示の場合は[プログラムと機能])を選択してください。
2. 表示されるウィンドウ内のリストから「License Administration Server for YDC」を選択し、[アンインストールと変更]ボタンを押してください。



## 第5章 トラブルシューティング

## 5.1 注意事項

### 5.1.1 ライセンスファイルパスについて

ライセンスファイルパスは、2Byte コード（漢字、ひらがな等）や半角スペースは使用できません。

例）”C:¥DTSinsight¥ライセンス”

### 5.1.2 ポート番号の指定方法

フローティングサーバは2つの TCP/IP ポートを使用しています。

デフォルトでは、1つは 27000～27009 の範囲から空いている TCP/IP ポートを1つ使用します。

もう1つは OS から指定されたランダムな TCP/IP ポートを使用します。使用する TCP/IP ポートを指定する場合は、以下の手順に従って設定してください。

(1) ライセンスファイルをテキストエディタで開きます。

(2) 1つ目の TCP/IP ポートを指定します。

SERVER 行の一番右端に下記フォーマットで TCP/IP ポートを指定します。

フォーマット： SERVER ホスト名 MAC アドレス ポート番号

下記例では、TCP/IP ポートの 8224 を指定しています。

例）SERVER YDC\_SERVER 001E4FCF9FD9 8224

(3) 2つ目の TCP/IP ポートは

VENDOR 行の一番右端に下記フォーマットで TCP/IP ポートを指定します。

フォーマット： port=ポート番号

下記例では、TCP/IP ポートの 3225 を指定しています。

例）VENDOR YDIGITAL port=3225

(4) ライセンス管理ツール “LAS Y”を起動します。

起動方法については【2.2 LAS Y の起動方法】を参照してください。

(5) LAS Y からサービスの再起動を実行します。

サービスの再起動方法については【3.3 サービスの再起動】を参照してください。



### 5.1.3 ログファイルのサイズ肥大化について

ログファイルはサービスを再起動しないかぎり、ログを取り続けます。  
そのため使用頻度の高いフローティングサーバの場合、短時間の間にログファイルは膨大なサイズになります。特に 1GB を超えるログファイルになると、不安定な動作になる場合がありますので、注意が必要です。  
ログファイルのサイズ肥大化を防ぐため、以下の 3 点の方法があります。

#### (1) ログファイルへの出力内容をフィルタ

ログファイルに出力される内容を一部フィルタすることができます。  
フィルタすることにより、出力される内容を少なくし、ファイルの肥大化を防ぐことができます。  
フィルタをするには、以下のオプションファイルをテキストエディタで編集します。

インストール先ディレクトリ¥digital.opt

フィルタできる項目は以下になります。

フィルタ名	説明
NOLOG IN	ライセンスのチェックインのログ出力を停止します。
NOLOG OUT	ライセンスのチェックアウトのログ出力を停止します。
NOLOG DENIED	ライセンス認証に失敗した時に表示される”DENIED”のログ出力を停止します。
NOLOG UNSUPPORTED	インストールされていないライセンスに認証アクセスが来たときに表示される”UNSUPPORTED”のログ出力を停止します。

フィルタを有効にするには以下の手順に従って設定してください。

- (1) 必要なフィルタ名をオプションファイルに追記します。
- (2) オプションファイルをライセンスファイルと同じディレクトリにコピーします。
- (3) LASYからサービスの再起動を実行します。  
サービスの再起動方法については【3.3 サービスの再起動】を参照してください。

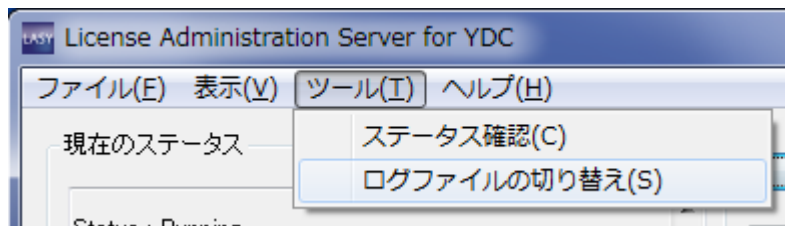
#### (2) サービスの再起動

サービスを再起動することによって、ログファイルを初期化し、新規にログを開始します。  
定期的にサービスを再起動することによって、ログファイルの肥大化を防ぐことができます。  
再起動後には元のログファイルは削除されるので、注意して行ってください。  
サービスの再起動方法については【3.3サービスの再起動】を参照してください。

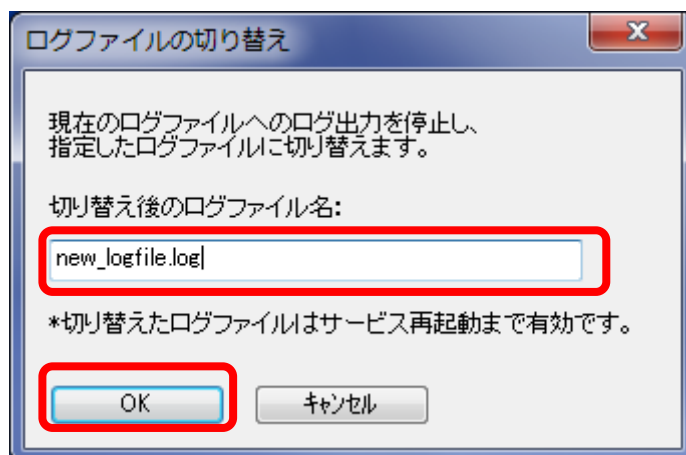
### (3) ログファイルの出力先の切り替え

現在のログファイルへのログ出力を停止し、他のログファイルに切り替えることができます。  
ログファイルの切替えの手順は以下になります。

- ①ライセンス管理ツール “LAS Y”を起動します。  
起動方法については【2.2 LAS Y の起動方法】を参照してください。
- ②”LAS Y”のメニュー - [ツール] - [ログファイルの切り替え]  
を押して、ログファイルの切り替え画面を開きます。



- ③[切り替え後のログファイル名]に新規に作成するログファイル名を指定します。

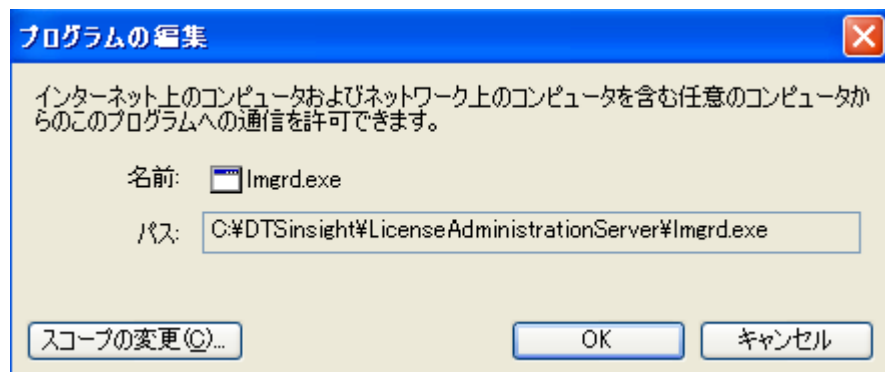
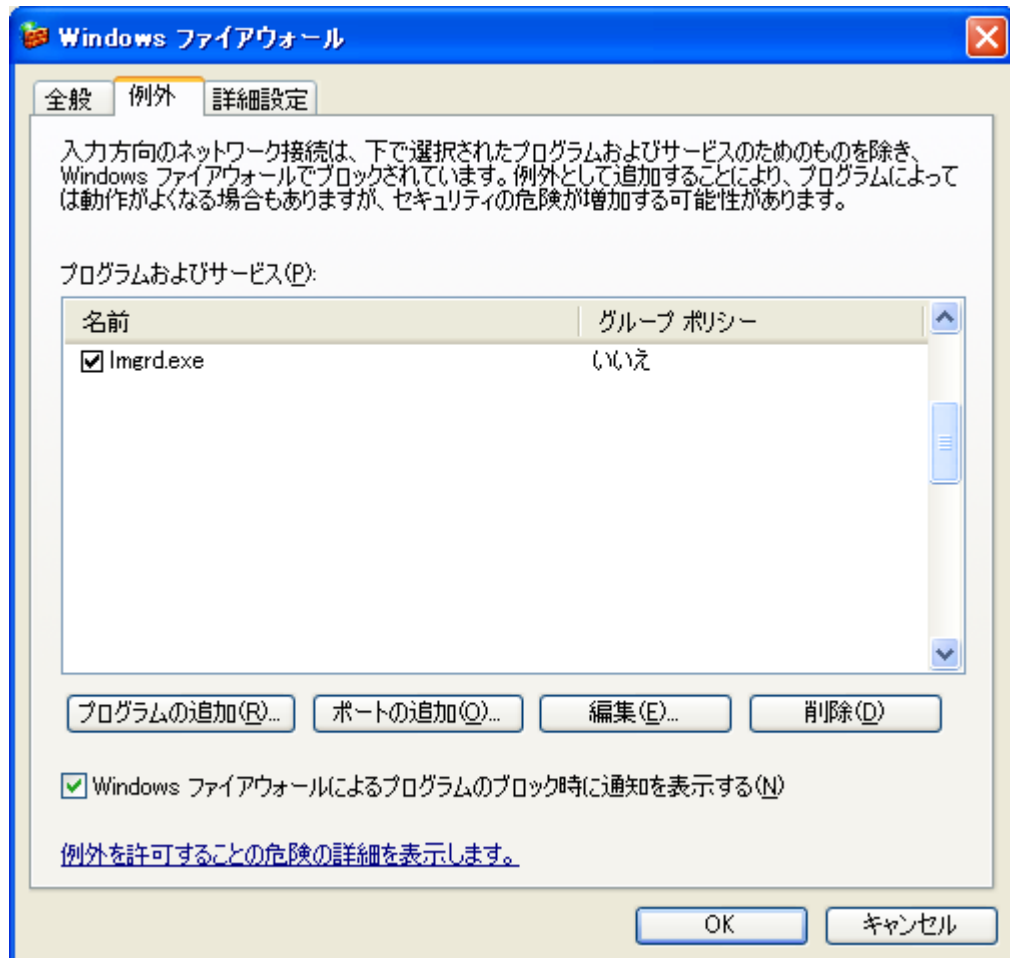


ログファイルは現在のログファイルと同フォルダに作成されます。

### 5.1.4 ファイアウォールについて

ファイアウォールの設定によってライセンスサーバが正常に動作しない場合があります。正常にライセンス認証が動作しない場合はファイアウォールの設定を追加してください。

#### ■ 例：Windows ファイアウォールの場合



【5.1.3 ポート番号の指定方法】の内容に従ってポート番号を指定している場合は、指定ポートのみブロック解除することによって正常に認証できるようになります。